

2018年6月21日
行政報告資料
町田市民病院事務部 経営企画室

町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）の進捗状況について

町田市民病院では、質の高い医療サービスを提供し、安定した病院経営を維持していくために、「町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）」を策定し、これに基づき、経営改善を進めております。

このたび、2017年度全期の進捗状況をまとめましたので、その結果を報告いたします。

添付資料

- ・ 町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）の進捗状況について（2017年度）

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）の進捗状況について（2017年度）

2018年6月21日
行政報告資料
町田市民病院事務部経営企画室

1. 患者・マーケットに関する取組 ～患者サービスの向上と医療連携の推進～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2017年度の実績	自己評価
(1) 患者満足度の向上 【2019年度】 入院患者満足度 90% 外来患者満足度 85%	入院患者満足度 88% 外来患者満足度 82%	86.6% 79.3%	・コンビニエンスストア等購買施設の充実 ・受付番号システム、モバイル端末呼出システムの活用	・4月にレストランをリニューアルオープンしました。窓際にカウンター席を配置し、景色を見ながらお一人でも利用しやすいレイアウトに変更しました。5月にはカフェを1階にオープンしました。 ・患者からの要望に応じて、病棟の消灯時間を5月から延長し、21時から21時半に変更しました。 ・6月に院内Wi-Fiを整備し、談話室等でご利用いただけるようになりました。 ・9月に患者満足度調査を実施しました。満足度は入院86.6%、外来79.3%という結果となり、目標を達成することはできませんでした。 ・11月に1階にコンビニエンスストアをオープンし、営業時間も21時半まで延長しました。9階には、衛生材料等売店もリニューアルオープンし、ゆったりとしたスペースで商品の相談ができるようになりました。そのほか、東棟4階に衛生材料自動販売機を、9階にはコンビニエンスストア自動販売機を設置し、24時間の利用が可能となりました。 ・受付番号システムが十分に活用されていない状況を改善するため、11月の合同部門責任者会議において、活用を徹底するよう周知しました。モバイル端末呼出システムについては、今年度の導入を見送り、受付番号システムを活用していく中で引き続き検討していくことになりました。	△
(2) 情報提供の充実 【2021年度】 病院ホームページアクセス件数 12万件/月 【2019年度】 病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 60件	病院ホームページアクセス件数 10万件/月 病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 40件	10.6万件/月 48件	・診療科ホームページの統一・充実 ・ホームページへのクリニカルパス掲載	・診療科紹介ページのリニューアルを行い、レイアウトを統一して見やすさの向上を図るとともに、疾患別の情報を充実させました。ホームページアクセス件数は10.6万件/月でした。 ・患者さんやその家族にとって、分かりやすい医療情報を提供することを目的として、ホームページに患者用クリニカルパスを48件掲載しました。 ・年4回発行している広報紙「町田市民病院クォーター」のページ数を、4ページから8ページに変更しました。町田市民病院の診療科や取り組みなどについて、よりわかりやすく発信できるようになりました。 ・入退院をスムーズに行っていたため、入院案内を見やすくリニューアルしました。	◎
(3) 医療連携の推進 【2019年度】 紹介率 65% 逆紹介率 45% 【2020年度】 地域医療支援病院 承認	紹介率 65% 逆紹介率 48% 連携医制度の構築 訪問医療機関数 50件	65.9% 51.8% 連携医制度の構築 164件	・地域連携予約枠紹介患者の優先診療の実施 ・入院患者の逆紹介推進 ・連携医制度の構築 ・医療機関訪問の実施	・二次救急医療機関としての役割を明確化し、地域医療機関との関係を強化するため、地域医療支援病院の承認を2018年度に早めて目指すこととしました。承認に向けて院内プロジェクトを発足し、地域医療支援病院の承認に必要な連携医制度の制度設計や、医師会・歯科医師会とさらなる連携を行うための交流会を開催しました。 ・地域医療支援病院の承認に向けた取り組みの一環として、紹介状を持たない患者へのかかりつけ医の推奨や、退院患者に対するかかりつけ医への積極的な情報提供を行った結果、紹介率は65.9%、逆紹介率は51.8%となり、地域医療支援病院の承認基準を満たすことができました。なお、紹介患者数は15,814人、逆紹介件数は12,433件となりました。 ・12月から連携医の募集を開始し、連携医療機関数は164となりました。顔の見える関係づくりのため、すべての連携医療機関を訪問するとともに、ホームページに連携医一覧を掲載し、患者へご案内しました。	◎
(4) 高齢患者に安心な退院支援の充実 【2019年度】 退院支援件数 1,400件/年 （「退院支援加算2」の算定件数）	退院支援件数 3,500件 （「退院支援加算1」の算定件数） ※退院支援加算1と退院支援加算2の主な違い ・病棟への退院支援職員の配置の要否 ・面談、カンファレンスの実施期限の有無	1,991件	・退院支援体制の強化	・中期経営計画策定後に、病棟に退院支援職員を配置するなど、より上位の基準である退院支援加算1に基づき退院支援を充実させていくことになりました。そのため事業計画では、退院支援加算1のもとでの目標を設定しています。 ・これまでの医療相談の体制に加え、4月から看護師4名と社会福祉士1名の5名からなる退院支援職員を配置しました。急性期の治療が終了したのち、安心して住み慣れた地域で療養生活を送れるよう、入院早期より退院に向けた支援を行っています。施設基準を満たしたことにより、6月から退院支援加算1を算定できるようになりました。 ・新規入院患者を対象にスクリーニングを実施し、退院支援が必要な3,397件に対して支援を行った結果、退院支援加算算定件数は1,991件(166件/月)となりました(4月～5月:退院支援加算2、6月～3月:退院支援加算1)。なお、2016年度実績891件(74件/月)に比べると123.6%増加しています。 ・在宅医師・看護師や介護支援専門員とカンファレンス等を行い、退院後の療養や生活についての情報連携を714件行いました(退院時共同指導料、介護支援連携指導料)。	△
(5) 小児医療・周産期医療の確保 【2018年度】 小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 75件/年	小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 100件/年	19.0人/日 120件/年	・小児入院体制の維持 ・ハイリスク妊産婦の積極的な受入	・小児入院患者数は19.0人/日(新生児内科含む)となりました。予防接種の充実等により、入院が必要な児童が減少していると考えられます。市内で唯一の小児科入院施設として、一般診療のほか循環器外来やアレルギー外来などの専門診療を行っています。 ・母体搬送受入件数は120件(10件/月)となりました。南多摩医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターとして、今後も積極的な受け入れを行っていきます。	○

<自己評価凡例>

◎：事業計画目標を上回った

○：概ね事業計画目標を達成できた

△：事業計画目標を下回った

×：事業計画目標を大きく下回った

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）の進捗状況について（2017年度）

2. 収支改善に関する取組 ～収益の向上と費用の削減を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2017年度の実績	自己評価
(1) 病床の安定的稼働 【2021年度】 病床利用率 85% 新入院患者数 1,000人/月	病床利用率 83% 新入院患者数 920人/月 有償利用率 45%	79.0% 914人/月 38.2%	・新規入院患者の獲得 ・特別室の利用率向上	・病床利用率は79.0%となりました。2016年度実績(81.0%)よりも減少していますが、呼吸器内科医の不在と平均在院日数が短くなっていることが主な要因です。病床利用率の低い病床の活用を検討し、課題解決を図る必要があります。 ・救急からの入院患者数が増加していることもあり、新入院患者数は10,966人(914人/月)と2016年度実績10,912人(909人/月)を上回っています。診療科別にみると、整形外科と循環器内科で患者数が増加しています。 ・2017年1月に料金改定した特別室の有償利用率は、一部の部屋で大幅に伸びたものの、全体的な有償利用率の向上にはつながらず、38.2%となりました。	×
(2) 診療単価の上昇 【2020年度】 入院単価 58,000円 外来単価 14,500円	入院単価 57,500円 外来単価 12,500円	57,845円 11,513円	・DPC入院期間Ⅱ 越え患者の退院推進 ・慢性期患者の逆紹介の推進	・全入院患者に対して、入院後3日以内に退院支援の必要性のスクリーニングを行い、入院早期から治療と並行した退院支援を行いました。こうした取り組みにより、平均在院日数は10.7日と2016年度実績(11.1日)よりも短くなっており、入院単価は57,845円と2016年度実績(57,356円)を上回ることができました。 ・外来単価は11,513円となり、2016年度実績(11,784円)よりも減少しています。外来単価を増加させるため、専門的な検査を必要とする患者を紹介いただけるよう、地域の医療機関との連携・機能分化を進めています。	△
(3) 材料費の削減 【2017年度】 ジェネリック医薬品使用量比率(DPC) 80% 【2020年度】 材料費削減額 500万円/年 (単価差積算ベース)	ジェネリック医薬品使用量比率 90%超(年度平均) 院外処方率 90% 材料費削減額 500万円/年 (単価差積算ベース)	91.5% 86.6% 約1,060万円/年	・入院患者へのジェネリック薬品の採用促進 ・外来患者への院外処方の推進 ・材料費の削減	・内服薬のほか、外用剤、注射剤の変更も行うとともに、2017年度は特許切れ薬剤等の大型シェア薬剤の切り替えを重点的に行いました。これにより、ジェネリック薬品使用量比率は91.5%となり、目標を上回っています。 ・院内での処方希望される患者もおり目標には達しませんでした。院外処方の取り組みを進めた結果、院外処方率は86.6%となり、2016年度実績(83.8%)を上回ることができました。 ・共同購入・商品代替・価格交渉により、診療材料費を約1,060万円削減しました。	◎
	その他 【目標】光熱水費 前年度比10%減 東海町田マンションの売却 医師用借上住宅の空室削減 総合評価加算の取得 認知症ケア加算の取得 退院支援加算1の取得	2.9%減 売却のため市長部局へ移管 利用率61.89% 総合評価加算の取得 認知症ケア加算の取得 退院支援加算1の取得	・光熱水費の削減 ・遊休資産の処分 ・借上資産の効率的な活用 ・新規施設基準の取得	・光熱水費の削減は前年度比2.9%減となり目標を達成できませんでしたが、前年度比約685万円を削減することができました。前年度に自家発電設備の更新をしたことによりガス使用量は増加しましたが、発電により電気使用量を約32%と大幅に削減することができました。今後はガス使用量の効率的な使用方法について検討していきます。 ・東海町田マンションの4部屋について、売却のため市長部局管財課へ移管しました。 ・総合評価加算、認知症ケア加算、退院支援加算Ⅰについて、いずれも6月から施設基準を取得しています。	△

<自己評価凡例>

◎：事業計画目標を上回った

○：概ね事業計画目標を達成できた

△：事業計画目標を下回った

×：事業計画目標を大きく下回った

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）の進捗状況について（2017年度）

3. 業務向上に関する取組 ～病院機能の向上を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2017年度の実績	自己評価
(1) 救急診療体制の充実 【2020年度】 救急車による受入患者数 460人	救急車による受入患者数 455人/月	474人/月	・救急隊との連携強化	・断らない救急を目指して取り組んだ結果、救急車による受入患者数は5,688人(474人/月)となりました。また、医療機関からの重症患者の受入を円滑に行うため、救急の場合には紹介元医師と当院医師が直接電話対応する仕組みに変更しました。 ・当院で例年開催している救急症例検討会に、初めて町田消防署からの参加があり、現場の困難事例等の意見交換を行いました。	◎
(2) 災害拠点病院としての機能の充実 【2017年度】 連携訓練回数 1回/年	連携訓練回数 1回/年 南多摩医療圏災害拠点病院間における通信訓練 1回/年 DMAT隊1編成の維持	1回/年 3回/年 DMAT隊1編成の維持	・災害時を想定した医療機関等との連携推進 ・DMAT隊員の養成	・11月12日に開催された南多摩医療圏図上訓練に参加しました。 ・南多摩医療圏の通信訓練に計3回参加しました。 ・2月に栃木県内で実施されたDMAT関東ブロック訓練に参加しました。 ・町田市に合わせて8月27日に防災訓練を実施しました。訓練の結果を生かし、災害対応マニュアルの見直しを行いました。	○
(3) 急性期病院としての質の向上 【2018年度】 手術件数 4,360件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 5,000単位/月	手術件数 4,400件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 5,400単位/月	4,722件/年 3,107件/年 5,183単位/月	・手術室運営の効率化 ・リハビリ部門の拡充	・整形外科や外科の手術件数が増加しており、手術件数は4,722件（うち麻酔科管理件数3,107件）と、過去最高の件数となりました。 ・呼吸器内科医の不足により「呼吸器リハビリテーション料（I）」が大きく減少しましたが、2016年度から算定を始めた「心大血管疾患リハビリテーション料（I）」の件数が増えており、リハビリ実施単位数は5,183単位/月となりました。 ・2017年度に発足した、地域のリハビリテーション事業所で構成されるリハビリ連絡会に参加し、地域との連携強化を図っています。退院支援においてはケアマネジャーや訪問リハビリテーション事業所との連携を強化し、退院後のリハビリテーションを支援しています。	◎
(4) 病院機能評価の更新 【2017年度】 病院機能評価の更新	病院機能評価の更新	病院機能評価の更新	・第三者による評価の受審	・院内セルフ監査や書類点検、模擬審査を行い、受審に向けて業務の改善を行いました。 ・11月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、認定病院として更新されました。今回の審査結果には、前回にはなかったS評価があり、課題が改善されたことでA評価も大幅に増えました(68%→83%)。	◎
(5) 外来機能の効率化 【2021年度】 外来患者数 1,000人以下/日 【2019年度】 地域連携予約枠利用者数 400人/月 逆紹介件数 970人/月	外来患者数 1,180人/日 予約優先診療の実施 地域連携予約枠利用者数 330人/月 逆紹介件数 1,000件/月 医師事務外来配置の推進	1,153人/日 予約優先診療の実施 372人/月 1,036件/月 医師事務外来配置の拡大	・機能分担(医療連携)の推進 ・予約優先診療の実施 ・予約診療体制の充実 ・医師の負担軽減	・急性期の治療が終了し、病状が安定した患者を積極的に逆紹介した結果、逆紹介件数は1,036件/月となり、目標を上回っています。また、外来患者数は1,153人/日となり、2016年度実績(1,234人/日)に比べ6.6%減となりました。 ・糖尿病・内分泌内科、腎臓内科および皮膚科で地域連携予約を開始しました。また、眼科および耳鼻咽喉科の地域連携予約枠を増加しました。この結果、地域連携予約枠利用者数は372人/月となり、2016年度実績(344件/月)と比べ8.1%の増となっています。 ・医師事務の外来への配置を、心臓血管外科、整形外科、内科、リハビリテーション科へ拡大しました。問診票事項の聴取、指導管理料の算定補助、カルテ記述などのサポートを行っています。医師指導記録の作成補助を行うことにより、算定件数の増加にも繋がっています。また、内視鏡1年後フォロー患者の電話予約やオーダー等の事前準備体制を整備しました。	◎
(6) 外来化学療法センターの運営効率化 【2018年度】 化学療法実施件数 200人/月	化学療法実施件数 190人/月	171人/月	・ベッドの効率的な運用	・分子標的治療薬を使用した治療時間が長い症例が増えていることなどにより、化学療法実施件数は2,054人(171人/月)と2016年度実績2,062件(172件/月)をわずかに下回りました。	△

<自己評価凡例>

◎：事業計画目標を上回った

○：概ね事業計画目標を達成できた

△：事業計画目標を下回った

×：事業計画目標を大きく下回った

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）の進捗状況について（2017年度）

4. 進化・成長に関する取組 ～人材の安定確保と育成を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2017年度の実績	自己評価
(1) 質の高い病院職員の安定確保 【2021年度】 (常勤職員数) 医師 93人 医療技術 97人 看護師等 402人 事務 42人 (うち病院専任) 14人 計 634人	病院専任事務職員数 9人 臨床研修指導医 17人	9人 17人	・病院事務職員の専門性向上 ・研修医師の指導体制の充実	・医事課に任期付き職員を1名採用し、病院専任事務職員は9人となりました。 ・臨床研修指導医のうち1名が2016年度末に退職しましたが、2017年度上半期に1名が受講したため、17人となりました。 ・医療技術職を3名、看護師を29名採用しました。 <2018年3月時点> 医師 88人 医療技術 92人 看護師等 410人 事務 42人 (うち病院専任) 9人 計 632人 ※育休及び退職者は含まず	○
(2) 質の高い医療従事者の育成 【2018年度】 医療安全・感染対策講習会延参加人数 3,600人/年	医療安全・感染対策講習会延参加人数 3,100人/年 地域の医療従事者に対する研修実施回数 12回	3,208人/年 28回	・医療安全・感染対策などの研修の充実 ・地域の医療従事者に対する研修	・医療安全・感染対策講習会を計5回実施しました。講習会当日に受講できなかった職員を対象に、ビデオ上映やDVD貸出による受講を推し進めた結果、延べ参加人数は3,208人(医療安全1,053人、感染対策1,368人、危険予知トレーニング787人)となっています。 ・地域の医療従事者を対象とした研修を28回実施しました。研修内容は看護職向けのものが多く、来年度以降は医師向けの研修を増やしていくことが課題です。なお、病院ホームページでの周知やポスターの様式など、統一的なルールを決定しました。	○
(3) 職員満足度の向上 【2021年度】 職員満足度 65%	職員満足度 62% 業務改善策の策定	61.5% 業務改善案の作成	・職員満足度調査の実施 ・職員満足度調査に基づいた業務改善策の策定	10月に職員満足度調査を実施しました。職員満足度は61.5%となり、前回の調査(60.1%)及び全国平均(56.1%)を上回りました。また、調査結果から得られた課題について業務改善案を作成しました。2018年度には具体的な改善策を策定し、業務改善を図っていきます。	○

<自己評価凡例>

◎：事業計画目標を上回った

○：概ね事業計画目標を達成できた

△：事業計画目標を下回った

×：事業計画目標を大きく下回った